

*Let's think about the future of Japan*

**日本の  
未来を  
考えよう**

ライフネット生命保険株式会社  
代表取締役会長兼 CEO

**出口 治明**

クロスメディア・パブリッシング

# はじめに

## ● 日本ほど素晴らしい国はない

僕の趣味は、旅と読書です。これまでに70以上の国、1200を超える都市を訪れ、自分の足で歩いて得た1つの結論があります。

それは、「日本ほど素晴らしい国はない」という確信です。

皆さんは、私たちが暮らす日本という国をどう思っているのでしょうか？

2014年度に内閣府が行った世論調査で、「50年後の日本の未来は、現在と比べて明るいと思うか、それとも暗いと思うか」という質問をしたところ、「明るい（どちらかといえば明るいも含む）」と答えた人が60%という結果になりました。日本の未来は暗いと考える人が半数以上ということとなります。

テレビ、新聞、本など、さまざまなメディアを通じて流れる「公的年金は破綻する」

「未曾有の高齢化社会」「世界一の借金を抱える国」など、不安を煽る情報の影響が大きいのかもしれません。

でも僕は、日本の未来は明るいと考える1人です。

なぜなら、未来は現在の日本に生きている私たちがつくり上げるものだからです。暗い未来を導きそうな課題が目の前にあるのなら、それをしっかりと受け止めて、明るい未来になるように対策を講じればいいだけです。

ただ、そのためには日本のありのままの姿をきちんと「知る」ことが必要です。

● 「図会」を知っていますか？

矢野恒太記念会から毎年出版されている「日本国勢図会」と「世界国勢図会」という本を知っていますか。図会と書いて、「ずえ」と読みます。人口や産業、貿易、社会保障など、ありとあらゆる分野を網羅した統計データブックで、500ページ前後もある大作です。僕はこの2つの本を毎年かならず買って、時間を見つけては眺めることが習慣となっています。

矢野恒太が「日本国勢図会」を世に出したのは第1次世界大戦が終結してから9年後の

1927年。昭和天皇が即位して2年目の年です。第1次世界大戦後の日本は、3回にわたる大きな経済恐慌が市民をパニックに陥れていた時期でもあります（1927年の3月にも金融恐慌が起きています）。そのような時代に日本国勢図会を書き上げた矢野恒太は、初版の序文でこう記しています。

編者が若し教育者であつて、幾人かの青年を預かつたなら、本書に書いたことだけは何科の生徒にでも教えたいと思うことである。本書は講堂のない青年塾の一部である。

人々がときに冷静さを失い、集団ヒステリーのように大勢に流されてしまうのは、ひとえに情報不足が原因です。そのような日本の現状を見かねて、これからの日本を担う若人たちに「客観的データ」の価値を知らしめ、それによつて主体的な判断を下せる「自立した日本人」を1人でも増やすために、日本国勢図会はつくられたのです。

生命保険業界で働いている読者であればご存じでしょうが、矢野恒太は第一生命の創立者であり、相互保険生みの親と言われた人物でもあります。わが国の生命保険の礎を築いた大恩人の1人です。しかも、日本国勢図会が初めて書かれたのは、矢野恒太が現役で第

一生命の社長をしていたときです。

同じ生命保険業界に携わっている人間として、矢野恒太の熱い想いがつまった国勢図会を読んでみると、さも、自分が矢野恒太から授業を受けている青年になったような気分になり、背筋が伸びます。

ただ、日本国勢図会も世界国勢図会も、基本的に図表しか載っていませんので、データを読み解くことに不慣れな人からすればかなりとっつきにくいというのが正直なところですよ。ただの文字と数字の羅列にしか見えないかもしれません。

しかし、せっかく貴重なデータがあるのですから、データのプロだけが使うのではあまりにも、もったいない話です。

学生や主婦（夫）の皆さん、若いビジネスパーソンなど、ごく普通の市民が「図表の意味するもの」を理解できるような、簡単な解説入りのデータブックがあればいいのにと、常々思っていました。そのときにクロスメディア・パブリッシングから出版の依頼をいただいたのが、この本です。2014年の春先のことでした。

● **数字で見れば、日本の姿がともよく見えてくる！**

かつて日経新聞の小さなコラムで次のような話がありました。

「人間にとって一番恐ろしい動物は何だろう？」という問いに対して、人々はやれ「人食ライオン」だの、「人食いザメ」だの、さまざまな回答をしました。

しかし、実際の統計を見ると、1位はぶつちぎりで「蚊」。年間、70万人もの人を殺しています。2位は「人間」（殺人）で同40万人。次は「毒蛇」で、数字はガタツと落ちて4万人。

人食いザメによる死者は、年間10人前後しかいないそうです。

この逸話が意味するところは、人は「国語」で議論をすると答えがたくさん出てきて議論が拡散しがちになるが、「数字」を介してみると、議論が収束して世界の姿がはっきりと見えるということです。ようは、形容詞やイマジネーションで物事をとらえるのではなく、客観的な数字やファクトを基準にすれば、実像がより分かり、ムダな恐怖がなくなり、さらに今の自分たちに課された課題が明確になるということです。

テレビのニュースや新聞に接するときも、政治家やコメンテーターの発言をただそのまま受け入れるのではなく、冷静に数字を追うべきだと思います。むしろ形容詞ばかりが出てきたら、少し疑った方がいいかもしれません（説明をする時間の制約もあるのでしょうか）。

ましてや矢野恒太の時代と異なり、いま私たちの身のまわりには数字を追うツールがいくらでもあります。スマートフォンでブラウザを立ち上げて、キーワードを打ち込めば、ありとあらゆるデータベースにアクセスできるのですから。

僕は何事であれ、物事を考えるときは必ず「タテ軸とヨコ軸」を持つことを心がけています。

タテ軸とは時間軸・歴史軸。主に過去にさかのぼって同じような問題に直面した人はいないのかどうかを調べます。ヨコ軸は空間軸・世界軸。「他の国ではどうなのか?」「ライバル企業ではどうなのか?」といった情報を集めて比較することで、判断の精度を高めるようにしているのです。

この本は、できるだけ具体的なデータ(数字)を使って日本の現状を世界(ヨコ軸)や過去(タテ軸)と比較することで、日本が抱えている課題をよりクリアしていくことを主たる目的としています。普段、新聞を読まない人や、日本の将来に「漠然と」不安を抱いている若い世代の人にも気楽に読んでもらいたいと思って、解説はなるべく平易に書いたつもりです。

また、使っているデータも皆さんがネット上から拾えるものばかりです。何か気になったことがあったらインターネットでデータを探すという習慣を身につけていただけたらと

思います。

この本をきっかけに1人でも多くの読者の皆さんが、日本の未来を「具体的に」、そして「明るいものだ」と考えられるようになれば、著者としてこれ以上の喜びはありません。読者の皆さんの忌憚のないご意見、ご感想をお待ちしています。

haldeguchi.d@gmail.com

最後になりましたが、出版の労をとっていただいた根本輝久さん、多忙な僕に代わって原稿を書いていただいた郷和貴さんのお2人に心からの感謝を捧げます。本当にありがとうございます。

2015年8月 出口治明



序章

「知っているようで知らない日本」  
のおさらい

第1章

借金篇

市民1人あたりの生活水準はアジアで5位

-----  
26

もはや日本経済に高成長は望めない？

-----  
31

長期デフレと賃金下降は先進国で日本だけ

-----  
39

不老長寿の夢を実現した日本

-----  
46

世界一の「超高齢」社会を突き進む

-----  
51

日本の広さは世界9位!?

-----  
59

最も人口密度が高い国はどこ？

-----  
64

世界ダントツの巨大都市「東京」

-----  
68

日本は安全？それとも危険？

-----  
73

世界一の公的借金大国ニッポン

-----  
80

第2章

人口編

日本の公的借金が増えつづけるワケ

94

株価と為替で見る日本の現実

102

世界一の貿易黒字国に赤信号

112

日本の低い失業率にはワケがある

121

50年後、働く人の数は半分に

132

「小負担・中福祉」という理想郷のような国

141

巷に流れる「公的年金破綻説」は正しいか

155

高齢者医療と多死社会を考える

168

日本の医療は世界一効率的かつ非効率!?

179

## 第3章

# カルチャー編

健康にまつわる国際比較

190

日本人と言語と宗教

199

マスメディアを信用しすぎる日本人

208

1人暮らしが主流へ!

215

## 第4章

# 政府と軍事力編

日本は世界に稀に見る小さい政府!

222

日本の議員は世界一美しい商売!?

228

日本は軍事大国?

240

第5章

治安編

日本の警察は優秀か？

-----  
250

日本は自殺大国なのか？

-----  
257

第6章

教育編

日本の義務教育の特徴って何？

-----  
264

日本人の英語力は世界最低水準

-----  
271

日本の大学改革まったなし

-----  
279

## 第7章

# 国際競争力編

国際社会で薄れゆく日本の存在感

国際化はインフラの整備からはじまる

国際競争力ランキングで見る日本の実力

日本人の働き方は非効率である

「大企業病」に蝕まれる日本

290

297

307

315

326

## 第8章

# 新しい産業編

観光大国を目指せ！

いびつな農業政策

338

345

島国ニッポンの漁業が衰退しているワケ

357

## 第9章

### 女性編

女性の活躍の場が少ない日本

366

「安心して子どもを産める社会」の実現に向けて

376

日本人の結婚観はもう古い!?

385

## 第10章

### インフラ編

日本の交通インフラはどれくらいスゴイのか?

396

世界一の通信インフラを持ちながら活かせない日本

406

第11章

環境・エネルギー編

日本は環境大国になりえるか？

414

日本のエネルギー資源を考える

424

巻末付録 ドイツとの徹底比較！

434

おわりに

443

参照サイト・参考文献

446